

# 令和6年度女性のチャレンジ賞表彰

様々な活動にチャレンジしている女性、団体・グループをご推薦ください！

男女共同参画社会の実現のためには、誰もが自らの意欲と能力によって自分の未来を切り開いていくこと、夢や志を実現することが可能であると信じられるような、柔軟で活力ある社会にしていくことが大切です。

そこで内閣府では、起業やNPO、地域活動などにより様々な分野で活躍している身近な女性のモデルを示すことによって、女性が活躍する機運を高めていくため、「女性のチャレンジ賞」を実施しています。

## 〔表彰の種類・対象〕

### （1）女性のチャレンジ賞（4件程度）

起業やNPOなど様々な活動を通じて社会課題の解決を目指すチャレンジ、新たな分野に活躍の場を広げるチャレンジなど、身近なモデルになると思われる女性個人、女性団体・グループ

### （2）女性のチャレンジ支援賞（2件程度）

（1）にあるような女性のチャレンジについて積極的な支援を行い、男女共同参画社会の形成の促進に寄与したと認められる個人、団体・グループ（男性による支援を含む）

### （3）女性のチャレンジ賞特別部門賞（2件程度）

上記（1）（2）に該当する者のうち、当該年度の特別部門賞テーマに該当する者

令和6年度のテーマ「気候変動問題等の環境問題におけるチャレンジ」

持続可能な社会の実現が世界的な喫緊の課題となる中、G7やG20、APECなどの国際会議においても環境問題に対する取組におけるジェンダー主流化の重要性が論じられるようになってきている。また、第5次男女共同参画基本計画（令和2年閣議決定）においては、気候変動問題等の自然環境や社会環境・生活環境に係る環境問題の取組に当たっては、男女共同参画の視点が反映されることが重要としている。

気候変動の影響は、男性よりも女性が強い影響を受けると言われている。新しい発想や柔軟な視点により、STEM分野や農林水産分野等で気候変動問題等の環境問題への対策にチャレンジし、活躍する女性個人・女性団体、そのチャレンジを支援する個人・団体を表彰の対象とする。

## 〔募集締切〕 令和6年2月29日(木)必着

〔応募方法〕 男女共同参画局ホームページの女性のチャレンジ賞募集ページから、推薦調書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、電子メールにてご提出ください。

✉ [g-women.challenge.c9y@cao.go.jp](mailto:g-women.challenge.c9y@cao.go.jp)  
(<@>を@に変更して送信してください。)

## 〔お問合せ〕 内閣府男女共同参画局総務課 女性のチャレンジ賞担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

電話：03-5253-2111（代表）

HP：右のQRコードからアクセスできます。



# 〔ご参考：令和5年度女性のチャレンジ賞受賞者、受賞団体一覧〕

月刊広報誌「共同参画」8月号より抜粋

## 〈女性のチャレンジ賞〉 受賞者3名、受賞団体2件

50音順、敬称略



石頭 悦  
株式会社幸呼来Japan  
代表取締役  
推薦者：岩手県

「盛岡さんさ踊り」の浴衣やメーカーの余り布を材料に、裂き織の技術を使って新しい裂き織生地やポーチ、テーブルウェア等の製品を製作し、販売。「就労継続支援事業所」の認可取得後は、障害者の働く場所づくりに貢献。



杉田 映理  
大阪大学大学院人間科学研究科教授  
推薦者：大阪大学

月経のある人々のウェルビーイングの向上を目指した研究および実践を継続的に実施。月経対処の支援・教育をグローバルな視点から捉えるとともに、日本国内における生理用品のトイレ内での無償提供のしくみづくりを研究・実践している。



ちちぶエフエム株式会社  
代表取締役  
磯田 恵美  
推薦者：埼玉県

毎日生放送で交通情報や防災情報などを発信する他、地域住民の番組出演やイベント会場からのリポートなどを放送。有事の際には、災害協定などに基づきいち早く正確な情報を地域住民に届けている。



津賀 薫  
特定非営利活動法人  
タンDEM自転車NONちゃん倶楽部 理事長  
推薦者：愛媛県

障害者の持つ隠れた可能性を引き出すとともに、新たな夢を持つきっかけを創出することを目指す団体の代表。2015年から「愛媛県障がい者しまなみサイクリング大会」を開催し、障害者の社会参加及び自立促進に努めている。



NPO法人無戸籍の人を支援する会  
代表理事  
市川 真由美  
推薦者：国際ソロプチミスト奈良

無戸籍の人とその家族を対象とした相談対応、戸籍取得の支援、戸籍取得後の自立生活の支援など、無戸籍に起因した課題を抱える人に対する支援活動を行う団体。これまでに7名の就籍、11名の住民票取得、1名の国籍取得を実現。

## 〈女性のチャレンジ支援賞〉 受賞者2名、受賞団体1件

50音順、敬称略



川口 映子  
産後ケア やわらかい風 代表  
推薦者：鳥取県

2016年に産後ケア施設を開設。全国初の夜泣きの母子への宿泊支援「赤ちゃん夜泣き保険すやりんこ®」や温泉を活用した「いい風呂の日」、「未来のパパ塾」、いのちを感じる場所「子宮のお部屋」など独自の活動を展開する。



特定非営利活動法人こどもサポートにっこ・にこ  
理事長  
小畑 たるみ  
推薦者：大分県

子育て支援の輪を地域全体へ広げるため、総合的な子育て支援を行う同団体を設立。自治体、地域社会と協働した子ども向けの体験活動、独居高齢者と子どもたちの交流事業、出産直後の家庭や地域に居場所のない家庭への訪問・支援事業などを展開。



野村 恭子  
秋田大学大学院医学系研究科教授  
推薦者：秋田大学

医師として医療に従事する傍ら、我が国の医学界における男女の就労格差について多数の研究を国際誌へ発表し、学術面で貢献。大学の女性医師研究者支援事業の立ち上げ、学会、医師会、医学会連合等、男女共同参画の推進と若手の人材育成に尽力している。

## 〈女性のチャレンジ賞特別部門賞「国際的なチャレンジ」〉 受賞者3名

50音順、敬称略



菊地 君与  
九州大学 講師  
推薦者：九州大学

低・中所得国の農村部等医療人材が不足する地域でも母子が妊娠期から出産後までの継続ケアを受けられるよう、ICTを活用した可動式クリニック（PHC）による遠隔健診を実施。バングラデシュでは300組以上の母子に対し遠隔での健診とケアを提供。



黒崎 伸子  
黒崎医院 院長  
推薦者：長崎県

2001年以降「国境なき医師団」の人道医療援助活動に外科医として計11回派遣され、2010～2015年には「国境なき医師団日本」会長を務めた。日本BPW連合会会長やBPW長崎クラブ会長を務めるなど、女性の社会的地位向上等を目指し精力的に活動。



高橋 しづこ  
東京大学大学院医学系研究科 非常勤  
講師  
推薦者：一般

子供向けのコロナウィルスの説明を目的として描いた絵本『せいかがかぜをひいたから』は、同氏が使命感を持って働く医療従事者の一人として執筆したものであり、日本語以外の14か国語に翻訳された。